

命より大切なことが見つかった時、本当に命を大切にすることができる

あなたの「生きる」を支えるお寺

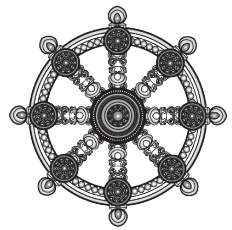
毎月 25 日発行 しょう しき しょう こう

お寺のかわら版

じゅんしょうじほう

純正寺報

青色青光 No.348



発行責任者：浄土真宗本願寺派 護法山 純正寺 住職 釋 覚恵（漢見覚恵）

〒522-0075 滋賀県彦根市佐和町 3-29 TEL (0749)-22-7888 FAX (0749)-47-4829

メールアドレス : purity.temple.since1499@gmail.com

※この紋章は「法輪」といい、車の輪が回り続けるように未来に向かって永遠に弘められていく仏教を象徴した、世界中の仏教徒共通のシンボルです。

五月二十五日（日）

午前十時から正午
午後一時半から三時半

親鸞聖人のご誕生のご縁

宗祖降誕会

こんき常例布教併修

お勤め『正信偈和讃』

午前・午後共に

ご法話 藤澤めぐみ師

初参式の
受式ご案内

当日午後のお勤めのはじめに、ご門徒のご家庭にお誕生になったお子様やお孫様の初参りのお祝い「初参式」を行います。受式ご希望の方は、純正寺住職までご連絡ください。

YouTube 純正寺チャンネル



LINE 純正寺公式アカウント



純正寺公式ホームページ



facebook 常朝事チャンネル



純正寺の法要は「YouTube」で、常朝事は「facebooklive」で、それぞれ生配信でも録画でもご参拝・お聴聞いただけます。

住職法話

われかくのごとくきく
我聞如星

遠く出遇いの宿縁をよるこぶ③

私が何故、お念仏に生きるようになったのか

あとは任せたぞ

その結果、昭和六十三年に本堂・庫裡が、現在の場所に現在の状態で復興し、

平成元年には念願の本堂復興落慶法要を勤めることができました、しかし、この間病気の治療に専念することが難しかったことと、疲労の蓄積のため、あくる平成二年春に父は倒れて入院し、末期の肝硬変及び肝細胞癌で余命半年の宣告を受けることとなったのです。

ところが、そのような状況になっても父は、治療を受けながら住職と布教使の

職務を休むことはありませんでした。その父の後ろ姿が、私が僧侶・念仏者として生きる幹になっています。

医師から宣告された余命の六ヶ月がもう過ぎた、平成二年十月の純正寺の報恩講の時のことでした。「大速夜法要」という、報恩講の期間中で最も丁寧で賑やかなお勤めには、通常住職が色衣・七条袈裟という最礼装でお導師をお勤めします。ところが、住職である父は当時大学院生であった私に「今年の大速夜法要の導師はあなたが勤めなさい」

と言ったのです。父には、きつと来年の報恩講まで生きることは難しいという思いがあったのでしよう。ならば、これが自分で勤める今生最後の大速夜法要の導師だとも考えてもおかしくありません。しかし、父は私を導師に指名したのでした。

私は、その意味をその時父に直接尋ねることはできませんでしたが、後の、その場にお参りくださっていた近隣寺院のご住職が「あれは、お父さんが息子であるあなたに、あとは任せたぞという、強い思いがあったのだよ」と教えてくださった。その言葉に涙しながら、私は父の住職としての覚悟を知らされました。

布教使としての

父は、長い間「布教使」として、多くの寺院で法話をさせていただいていました。しかし、私には「布教使にはならないでほしい。真宗の僧侶として、ご門徒に対してご法話はできなければならぬが、それが布教使となると人気・不人気に左右されるので、人気があれば布教依頼があるが、人気がなければその依頼はなかなか難しいから」と常々話していたのです。

父は、人気のある布教使でしたので、秋の報恩講の時期になると、毎日のように多くの寺院に法話に出かけていました。しかし、余

命宣告をされた平成二年の秋は、流石の父も布教を断るものと思っていました。

ところが、父は断ることなく週末を中心に布教に出かけていきます。十月が過ぎて十一月になると、父の体力も消耗が激しく、身体を引きずるようにして出かけていく姿がとても心配でした。

そんなある日のこと、その日もどこかの寺院の報恩講の夜の法座のご法話を終えて、午後十時半頃に帰宅したのです。疲れ果てた父は、居間の床に力なく腰を下ろしました。そんな父を見て、私はこう言いました。「父さん、自分の身体が今どのような状態かわかって

いるだろう？父さんの命は、父さんだけではなく家族にとっても大切な命なのだから、もう少し身体のこととも考えて欲しい」と。

すると父は笑みを浮かべながら私にこう言ったのです。「今のお前にはわからないと思うが、父さんにはなあ、命よりも大事なものがあるんや」と。父が言った通り、私には父の言葉の意味が理解できませんでした。当時の私は、一番大切なものは命だと思っていたからです。そして、父は続けてこう言いました。「今まで、どのようにお話をしたらご門徒に理解してもらえらるだろうかと、そのことばかり気にしながら布教して

いたのが辛かったんや。でも、それはいらぬことやつた。たとえ誰も聞いていなくても、今自分が感じている教えを感じている通りに言葉にするだけで、それで良かったんや。覚恵、お前も布教使になるかい？」と。今も、私の布教使としての原点です。

父の最後の贈り物

こうして、その年の布教のご縁を全ていただいた父でしたが、平成三年の三月初日、ついに身体は限界を迎え、父は最後の床につきました。三月九日が父の往生の日ですが、その前日は肝硬変の末期症状のひとつである「食道静脈瘤破裂」という状態にありました。

口から血しぶきを上げるような、見ていることさえ辛い状況の中、主治医が止血を試みるとおっしゃいました。しかし、一番苦しく辛いはずの父本人がそれを拒否しました。私は、医師から父に止血を受けるように説得するよう命じられましたが、私の説得にも父は応じず止血を受けようとはしませんでした。

そんな父に私が理由を尋ねると、父は絞り出すような声で「もう、私のいのちは阿弥陀様に全部任せてある。だからもうこれ以上何もしなくても良い。ただ、そばにいてくれさえすればそれで良い」と言ったのです。それは、父の私たち家族への最後の贈り物でした。



5月の皆の宗サンガ

サンガ(僧伽)とは、利害関係を超えた、互いに支え合う、安心できる本当の人のつながり「お念仏の家族」をあらわしています。純正寺のすべての活動は、あなたにも仏縁が整って、まことの同朋(とも)の出会いが広がっていくことを願い、運営されています。



キッズサンガ「ほとけの子ども会」

17日(土)・31日(土)

10:00~12:00

就学前・小・中学生対象

「らいはいのうた」のお勤めと住職による仏典童話の読み聞かせ。おやつやフリータイムもあります。

ゆっくり学ぼう家「寺子屋」

4日(日)・18日(日)

16:00~18:00

小学生・中学生対象

教科書に沿った問題集や宿題、自主勉や読書に取り組みます。休憩時には、おやつもあり。

みんなの食堂ビハーラ

8日(木)・22日(木)

17:00~19:00

年齢・性別は問いません

子どもからお年寄りまで、誰でも参加できる楽しい食事と学習の時間。事前にお申し込みください。

世のなか安穏なれ「ビハーラ彦根」

11日(日)

18:00~20:00

年齢・性別は問いません

参拝者の提起や質問を手がかりに、車座になって聴き合いながら、ビハーラの心を学びます。

ヨガ風ストレッチ「びはーら体操」

13日(火)・20日(火)・27日(火)

10:20~11:30

年齢・性別は問いません

お香とオルゴールの音色の中でのヨガ風ストレッチで、強くて柔らかな身体と心を作りましょう。

「月例法話座談会」

12日(月)

14:00~16:00

年齢・性別は問いません

日常の「何故？」を通して、お念仏に生きる尊さと確かさを座談会形式で感じ学びます。

親鸞聖人ご降誕の縁「降誕会」

25日(日)

10:00~12:00.13:30~15:30

年齢・性別などは問いません

『正信偈和讃』のお勤めと藤澤めぐみ師のご法話。午後には、乳児の初参式もあります。

みんな法友こんき常例布教

25日(日)

10:00~12:00.13:30~15:30

年齢・性別などは問いません

今月は、宗祖降誕会と併修です。

清々しい朝のおつとめ「常朝事」

年中毎朝 6:00~6:50

年齢・性別など問いません

『正信念仏偈』と『和讃』の繰り読み。『御文章』の拝読と住職の法話があります。Facebookでライブ配信もしています。

ご報告と

お願い

この度、純正寺住職は、「臨床宗教師」の認定資格取得のため、四月より二年間、京都の龍谷大学大学院に講義を受けに通うことになりました。当面の間、毎週水曜日と金曜日の午前中が講義受講の日時となりますので、月参り等で日時の変更をお願いすることがあると思います。何卒、ご理解を賜りまして、ようお願い申し上げます。

今月のエコキャップ一、六八二、七六八個

今年は、四月末でもまだお朝事の時にストーブに火を入れるほど寒いですね。今月は、二五八〇個のキャップをお預かりいたしました。